

2022年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名： 海岸清掃プロジェクト

活動名： メイド・オブ・ふるさと食育プロジェクト

★ 団体紹介（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

結成時期・目的

私たちは 2021 年に大学の学部研究の一環で行った、海岸ゴミ調査をきっかけに出会いました。実際に瀬戸内海の海岸ゴミの現状を目の当たりにし、「この現状を変え、少しでも美しい瀬戸内海を未来に残したい」という思いを持ったメンバーで本団体を結成しました。

構成メンバー

広島大学生 6 名で活動を行っています。

活動方針

私たちの住む西条は海が遠く、身近ではない海の問題について考えるきっかけがありません。しかし、海ゴミの 8 割は陸由来のゴミと言われており、海ゴミを減らすためには陸に住む全ての人が自らの消費や生活を見直し、ゴミを減らしていく行動をとる必要があります。そこで私たちは未来の海岸ゴミを減らすために、若い世代の意識と行動の変容を図る活動を行っています。

活動概要

広島県では牡蠣の養殖が盛んに行われており、海岸には牡蠣養殖パイプが大量に漂着しているという現状があります。牡蠣パイプを含め、現在海洋プラスチックが問題となっているものの、その海洋ゴミの発生源である私たちが、自らの生活を海洋ゴミと結びつけて考え行動することは難しいのではないかと感じます。そこで私たちは海が身近でない多くの人にも海とのつながりを感じ、海について知ってもらうことで、海ゴミを少しでも意識した生活を送ってもらいたいと思い、本プロジェクトを立ち上げました。

具体的には、幼稚園での食育活動の一環である野菜作りにアマモ肥料を使うことで、海を身近に感じてもらい、大学生が企画する「海を知るワークショップ」で園児たちが海の世界を知る足がかりとします。さらに、園児たちが自ら「広島お宝野菜」を育て、食べることを通して、広島県の伝統野菜や食文化について理解を深め、郷土愛を育むことにもつながると考えています。

★ 活動内容（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）

主な活動場所は東広島市西条にある、「御園宇にじいろ保育園」(以下、「保育園」)で、年長組の園児さん(約 25 名)と先生方(2~3 名)と一緒に作業を行いました。広島お宝野菜は、青大きゅうり、下志和地青ナス、呉オクラを種から育てました。

4 月 アマモ採取、土づくり、胴巻き発芽、種まき

4/2, 保育園, 挨拶・畑の下見

4/3, 安芸津, アマモ採取・牡蠣殻受け取り

4/9, 保育園, 土づくり

4/16, 保育園, 土づくり

4/18, 保育園, 土づくり(アマモ入れ)・胴巻き発芽,

4/21, 保育園, 種まき



↑ 土づくりの様子



↑ 野菜くずを土に混ぜ込む様子



↑ 胴巻き発芽の様子

(お腹のポケットで種を温めて発芽させます)



↑ アマモを土に混ぜ込む様子

5 月 定植・紙芝居

5/9, 保育園, 定植・紙芝居



↑ 定植の様子



↑ 紙芝居で園児さん達に野菜の成長までを説明



↑ 定植後の畑の様子(5月)



↑ 園児さんが毎日交代で水やりをしてくれました

6月 脇芽とり・収穫

6/24, 保育園, 脇芽とり・収穫



↑ 脇芽をとっている様子



↑ 下志和地青ナスを収穫している様子

7月 収穫・手作り紙芝居

7/25, 収穫, 手作り紙芝居(海を知るワークショップ)



↑ 収穫期の畑の様子(7月)



↑ 青大キュウリの収穫の様子



↑ 海ゴミ問題に関する自作の紙芝居を発表



↑ 収穫した野菜を給食で食べている園児さん達

その他の活動 出前環境授業(倉橋小)、豊かな海づくり大会サポート

7/11・15, 倉橋小学校, 出前環境授業, 参加生徒数約 20 名

7/24, 呉, 豊かな海づくり大会サポート, 参加者約 50 名



↑ 環境授業で海岸清掃を行う様子(7/11)



↑ 海ゴミについて学び考える授業(7/15)

★ 実施に伴う効果 (どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。)

陸の生活から海ごみを見直してもらうことも重要ですが、活動の主体である園児のみなさんが楽しめることが最も重要です。私たちは園児さんが楽しみながら、海とのつながりや海ゴミ問題を考えられるように様々な工夫をしました。園児さんの手でアマモを畑にまき、アマモと海ゴミを結び付けた紙芝居を行うことで、園児さん達にとってはなじみのない海洋ゴミ問題を身近なものとして捉えるきっかけをつくりことができました。また、紙芝居の制作では、園児さんが理解しやすい言葉で、親しみを感じられるようなストーリーを作るのに苦戦しましたが、自作した紙芝居は園児さんたちの反応も良く、自分には何ができるかを考えるパートでは沢山の意見を出してくれました。海岸ゴミの現状を教えて終わりではなく、野菜作りや紙芝居のように、自らの手で触れ・見て・聞いて・学ぶことで海の問題を自分事として考え、さらに家族や先生同士との会話の入り口となる機会づくりに貢献できたと思っています。

加えて、食育としての効果も実感しています。野菜の生育に必要な菌を「きんちゃん」という愛称で伝えたところ、園児さんが畑の土に対して「きんちゃん」と呼びかける様子が見られました。また、野菜の種をお腹で温めて種子を発芽させる「胴巻き発芽」では、種を大切に扱う様子も見られました。野菜を一から育て食べる体験は、食べ物を大切にする感謝の心や好き嫌いせず食べること、地域の産物など食文化の理解といった、食育としての機能も提供できたと考えています。

保育園は開園直後にコロナ禍に見舞われ、園児の皆さんと地域の人との交流の機会がありませんでした。そのような状況の中、園児の皆さんと地域の大学生と一緒に活動する機会をつくりたいという保育園側の思いから、本団体を快く受け入れて頂きました。私たちが園児さんと打ち解けられるような雰囲気づくりや、園児さんと一緒に野菜の世話に取り組んで頂く等、園の先生方から手厚くサポートして頂きました。園のブログでも本活動の様子を取り上げて頂き、保護者の方からも好反応だったとのことでした。本活動を通して、子どもたちと地域のつながりの創生にも貢献できたと感じています。

★ 苦勞した点、今後の課題、発展の方向性など

初めて保育園の土を見せてもらったときは、土というよりも砂という状態で、良い土壌とは言えませんでした。しかし、講師の方、保育園の先生方や園児さんたちと一緒に土づくりを行ったことで、見違えるほどいい土壌になり、夏には沢山の野菜を収穫することが出来ました。また、メンバーの大学生全員が野菜作り未経験だったため、農業経験者の方からご指導を頂きつつ、一から試行錯誤しながら活動を進めました。

本プロジェクトを通して、大学生が地域の子どもたちと関わる事の重要性や可能性について身をもって感じる事が出来ました。海ゴミが身近でない地域でも海ゴミ問題を考え行動していくことは大切なことである一方、考えるきっかけがないことや問題を捉えにくい事も事実です。環境問題の現場(海ゴミ)を知る人がアクションを起こすことで、今まであまり関心のなかった人にも問題意識をもってもらうきっかけになるのではないかと考えています。私たちは今後も海岸清掃への参加や小中学校の環境学習のお手伝いなど、自分たちに出来る範囲で、海洋ゴミ問題にアプローチする活動を続けていきたいと考えています。

★ 若者×ツナグバへの提言 (改善につながるヒント、要望)

この度は、ご支援頂き誠にありがとうございました。若ツナの活動を通して、多くの方との出会いがありました。大学生と園児・児童、同じ目標をもって活動する全国の環境保護団体、地域の方々など、活動を通して人とのつながりの輪が広がっていくのを感じました。また、若ツナサミットなどでの他団体さんとの交流も、自分たちの活動を見直したり、知見を広めたりする機会になり、成長につながったと強く感じています。ありがとうございました。